

Interim Business Report 2024

第52期中間ご報告(2024年1月1日から6月30日まで)

株主・投資家の皆様へ

第52期第2四半期(中間期)が終了致しましたので、事業の概況についてご報告申し上げます。

当中間期における国内の外食産業を取り巻く経営環境は、個人消費の回復やインバウンド需要の増加等を背景に穏やかな景気回復基調が続いたものの、急激な円安や異常気象等による原材料価格の高止まり、人手不足やそれに起因する人件費の上昇など、依然として厳しい経営環境が続いております。

そのような中、当社(国内)では、赤字店の収益改善、ホスピタリティ向上のための行動指標の設定・評価、産地からの直接購買やメニュー改定による納得感ある商品構成と価格改定の浸透に注力致しました。また、全店完全キャッシュレス決済化(商業施設を除く)を実施し、店舗運営の効率化にも努めました。その結果、前年同期比で客数・客単価が伸び、インバウンド需要が堅調に推移したこともあいまって、国内売上高は49億14百万円(前年同期比10.4%増)となりました。食材価格高騰による原材料費率の悪化や全店キャッシュレス化で信販手数料が増加したものの、増収により利益率は改善し、営業利益は4億74百万円(同63.2%増)と大幅増益となりました。業績好調により繰延税金資産(将来の支払い税金の減額)の回収可能性を見込み、法人税等調整額△1億2百万円(利益)を計上したことから、中間純利益についても5億41百万円(同74.1%増)と大幅増益となりました。

米国では、店舗のあるカリフォルニア州の治安悪化や人件費高騰などの厳しい環境下、オペレーションの効率化と経費削減に注力したものの苦戦を強いられ、かつ新店開業費用の計上もあったことから、売上高は8億62百万円(前年同期比7.9%減)、営業損失74百万円(前年同期25百万円の損失)、中間純損失61百万円(前年同期19百万円の損失)となりました。

米国の業績悪化を好調な国内業績でカバーした結果、当中間期の連結売上高は57億76百万円(前年同期比7.2%増)、営業利益は3億99百万円(同50.4%増)、親会社株主に帰属する中間純利益は

4億80百万円(同64.5%増)となりました。

下期におきましても、国内の経済活動の活性化やインバウンド需要の堅調な推移により前年対比で増収効果が期待できるものの、資源価格・原材料価格の高止まりや、慢性的な人手不足・人件費高騰など依然として不透明な経営環境が続くものと思われます。

そのような中、当社(国内)では、引き続き、赤字店の収益改善、ホスピタリティの向上、並びに食材の海外現地調達による戦略商品の開拓や差別化に取り組み、好調な既存店業績を維持できるよう努めてまいります。また、新店・那須複合施設については、工期の遅れが発生したため、グランドオープン(全館開業)は次年度に見送り、順次開業していくソフトオープンスタイルという堅実な体制で開業準備を進めてまいります。

米国は、厳しいビジネス環境下の中、さらなるオペレーションの効率化と差別化に注力するとともに、10月の新店グランドオープンを目指します。

その結果、2024年12月期通期連結業績予想は、国内の上期の好調な業績と下期もその基調が続くものと想定し、連結売上高120億9百万円(前年比8.3%増)、営業利益8億25百万円(同12.6%増)となる見通しです。なお、順調な業績に照らし、当期中に繰越欠損金の解消が見込まれることから、当期末の繰延税金資産が当初よりも減少する見通しであり、親会社株主に帰属する当期純利益は6億11百万円(同27.9%減)となる見通しです。

8月に入り、「米国景気の先行き不安」「ドル安・円高の進行」により株式相場に大波乱が起こるなど環境変化は激しいものの、気を引き締めて業績目標の達成に注力してまいります。株主の皆様には、引き続き当社の事業展開にご注目いただき、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2024年8月

代表取締役社長 長谷川耕造

※本Reportに記載の業績計画は、発表日現在(2024年7月29日)において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は様々な要因によって計画数値と異なる可能性があります。

要約連結損益計算書

(単位: 百万円)

科目	2023年中間 (自 2023年1月1日 至 2023年6月30日)	2024年中間 (自 2024年1月1日 至 2024年6月30日)
売上高	5,387	5,776
売上総利益	808	972
販売費及び一般管理費	543	572
営業利益	265	399
経常利益	263	395
親会社株主に帰属する 中間純利益	292	480

(参考)会社別実績 ※下記の国内・米国業績は連結修正前の会社別数値です。(単位: 百万円)

科目	当社(国内)		子会社(米国)	
	2023年中間	2024年中間	2023年中間	2024年中間
売上高	4,451	4,914	936	862
営業利益又は営業損失(△)	290	474	△ 25	△ 74
経常利益又は経常損失(△)	282	456	△ 19	△ 61
中間純利益又は中間純損失(△)	311	541	△ 19	△ 61

要約連結キャッシュ・フロー計算書

(単位: 百万円)

科目	2023年中間 (自 2023年1月1日 至 2023年6月30日)	2024年中間 (自 2024年1月1日 至 2024年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	386	303
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 119	△ 731
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 218	152
現金及び現金同等物に係る換算差額	33	28
現金及び現金同等物の増減額	82	△ 247
現金及び現金同等物の期首残高	1,108	1,180
現金及び現金同等物の中間期末残高	1,190	933

決算資料の参照先

<https://www.global-dining.com/ir/>

決算説明会動画



■米国新店『Settecento』（セテチェント）の開業準備

ランドマークのロサンゼルス中央図書館を背景に、広い中庭を活かした“ガーデンダイニング”が魅力のイタリアン業態を開業予定です。店名の『Settecent』はイタリア語で『700』。所在地の700番地から名付けました。予期せぬ設備工事の追加を自治体から要請されたことで夏季オープン予定に遅れが生じ、10月のグランドオープンを目指しております。

施設名：セテチェント (Settecento) 所在地：カリフォルニア州ロサンゼルス郡ダウンタウン地区(700W5thST,LA)
施設概要：建物117坪、敷地173坪(中庭含まず)、屋内66席、テラス・中庭144席(予定)



(施設イメージ) SETTECENTO

■那須複合施設名『NASU PARADISE VILLAGE』に決定

空間そのものにエンターテインメント性を吹き込み、「毎日がお祭り」「縁日のように見て楽しい屋台の集合体」をイメージした施設造りを進めております。ユニークで緻密なデザインのため工期に遅れが生じ、年内にホテルと宿泊者向けダイニングを先行してソフトオープンさせ、全館グランドオープンは来年3月中旬頃と致しました。地域の人たちのオアシスとして、観光・ビジネスの拠点として、人が集まるヴィレッジを目指してまいります。



建築中の施設(2024年7月中旬撮影)

施設名：那須パラダイスヴィレッジ (NASU PARADISE VILLAGE) ホテル名：ホテルパラディソ (HOTEL PARADISO) 所在地：栃木県那須塩原市(那須ガーデンアウトレット隣接)
施設概要(予定)：鉄骨2階建1棟、延床面積877坪、1階にレストラン・フードコート・小売店等を14業態・800席(中庭含む)、2階にカジュアルホテル(37室)

会社概要(2024年6月30日現在)

Corporate Data

商号	株式会社グローバルダイニング GLOBAL-DINING, INC.
本社住所	〒107-0062 東京都港区南青山七丁目1番5号
主な事業内容	レストラン経営による飲食事業
設立年月日	1973年10月5日
資本金	44,968千円
従業員数	単体170名 連結186名(連結臨時従業員数745名)
店舗数	45店舗(海外2店舗含む)
子会社	グローバルダイニング、インク。オブ カリフォルニア
役員	代表取締役社長 長谷川 耕造 取締役 副社長 小林 庸磨 取締役 最高財務責任者 中尾 慎太郎 取締役 監査等委員 藤本 三郎 取締役 監査等委員(社外) 大島 明子(岡本 明子) 取締役 監査等委員(社外) 川井 隆史

株式情報(2024年6月30日現在)

Stock Information

発行可能株式総数	16,896,000株	
発行済株式の総数	10,385,800株	
株主数	3,461名	
大株主	※持株比率は分母から自己株式(711株)を除いて計算しております。	
株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
長谷川 耕造	6,153	59.25
株式会社スペースラボ	792	7.63
ハセガワインターナショナルトレイド カンパニー	626	6.03
吉田 知広	311	3.00
岡三証券株式会社	172	1.66

株式メモ

株主名簿管理人 三井住友信託銀行株式会社
〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
郵送物送付先 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
電話照会先 フリーダイヤル 0120-782-031
ホームページアドレス <https://www.smtb.jp/personal/procedure/agency/>



要約連結貸借対照表

(単位：百万円)

科目	前連結 会計年度末 (2023年12月31日現在)	当中間連結 会計期間末 (2024年6月30日現在)
資産の部		
流動資産	2,183	1,948
現金及び預金	1,180	933
売掛金	491	480
その他	511	534
固定資産	6,377	7,408
有形固定資産	5,045	5,963
建物及び構築物(純額)	1,102	1,102
土地	2,845	2,972
建設仮勘定	609	1,358
その他	488	531
無形固定資産	12	11
投資その他の資産	1,318	1,433
差入保証金	1,066	1,071
その他	252	362
資産合計	8,560	9,357

要約連結貸借対照表

(単位：百万円)

科目	前連結 会計年度末 (2023年12月31日現在)	当中間連結 会計期間末 (2024年6月30日現在)
負債の部		
流動負債	1,593	1,405
支払手形及び買掛金	353	269
1年内返済予定長期借入金	397	377
その他	842	757
固定負債	2,378	2,619
長期借入金	1,324	1,526
資産除去債務	575	578
その他	478	514
負債合計	3,972	4,025
純資産の部		
資本金	44	44
資本剰余金	2,144	2,144
利益剰余金	2,117	2,597
為替換算調整勘定	244	498
その他	36	46
純資産合計	4,588	5,332
負債・純資産合計	8,560	9,357